市政トピックス

鳴子温泉郷国民保養温泉地指定記念
地域活性化フォーラムを開催しました

鳴子温泉地域にある5つの温泉場を総称して鳴子温泉郷といわれています。そのうち、鬼首、中山平、川渡の3地区は、昭和35年に「奥鳴子・川渡国民保養温泉地」に指定されていましたが、本年5月20日、鳴子、東鳴子2地区を加えた鳴子温泉郷全域が、「国民保養温泉地」として環境省の指定を受けました。

これを機に、これからの温泉地形成や観光振興について、多くの皆さんと理解を深め合うため、8月27日、鳴子スポーツセンターで、「鳴子温泉郷国民保養温泉地指定記念・地域活性化フォーラム」を開催しました。

基調講演には、現代版湯治文化の先進地、大分県の竹田市から首藤勝次市長をお招きし、「地方創生時代に試される日本の温泉地力」と題した講話をいただきました。

ドイツの温泉保養地との交流から学び、温泉を活用したまちづくりを進めてきた竹田市の地域づくりを事例に、「ローカルを磨くためにはグローバルな視点が大切」と熱く話す首藤市長に、参加者も奮い立つような気持ちで、話に耳を傾けていたようです。

▲ドイツの温泉保養地が世界各国から長期滞在者を呼び寄せるのは、「リゾート」と「療養」のバランスが保たれているから。世界を眺めると自分たちの強みが見えてくると話す首藤市長

▲パネルディスカッションや事例発表も行われました

大崎市消防団が「平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました

9月14日、大崎市役所本庁舎で、平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞報告会が行われました。

平成27年9月関東・東北豪雨時に大崎市消防団が行った、豪雨の中での河川巡視や交通整理、各種水防工法を用いた決壊・洗掘防止活動が、被害の軽減に貢献したと認められ、今回の受賞の運びとなりました。

9月12日に首相官邸で表彰を受けた佐藤技大崎市消防団長は、「大崎市は広域で、想定される被害も多種多様。受賞を励みに、これからも全支団、全団員が一丸となって防火・防災に努めていきたい」と、受賞の喜びを話していました。

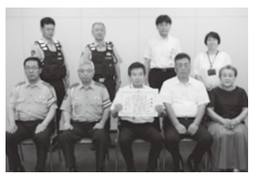
消防団員が日ごろから行う、地域の安全・安心を守る活動が受賞につながりました。団員の皆さん、おめでとうございます。

▲伊藤市長に受賞報告をする佐藤消防団長(写真右)

▲平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞者の記念撮影写真。4個人、38団体のひとつとして、大崎市消防団が表彰されました

2016 9月の主な出来事

1日	●松山地域交通死亡事故ゼロ500日達成感謝状贈呈式
2日	●第62回全国こけし祭り・第26回鳴子漆器展(～4日)
3日	●松山コスモス園開園(～10月10日)
10日	●姉妹都市交流サミット ●第53回政宗公まつり(～11日)
13日	●大崎市議会第3回定例会(～10月7日)
14日	●地域おこし協力隊辞令交付式 ●大崎市消防団平成28年防災功労者内閣総理大臣表彰受賞報告会
16日	●鳴子ダムが東北のダムでは初の選奨土木遺産認定
21日	●秋の交通安全県民総ぐるみ運動(～30日)
22日	●グリーンエネルギーフォーラム大崎2016
25日	●大崎市誕生10周年記念事業「出張なんでも鑑定団in大崎」公開収録
26日	●世界農業遺産・日本農業遺産への認定申請



▲松山地域交通死亡事故ゼロ500日達成に尽力いただいたみなさん。おめでとうございます。

Discover Osaki

地域発 お・ら・ほ・の・ま・ち

自分の住む地域を「おらほ」というと、親しみや愛着を感じませんか。
おらほの地域づくり、おらほの隠れた名所、おらほのおいしい特産品、おらほの伝統のまつり、おらほのイベント・・・。
そんな、愛してやまない「おらほの地域」を発信します。

鳴子温泉発

こけしを求めて52,000人が集う

9月2日～4日、鳴子小学校体育館などを会場に、第62回全国こけし祭りと第26回鳴子漆器展が開催されました。

全国のこけし工人が技を競い合う、こけしコンクールでは、土湯系の阿部国敏さん(福島県)が最高賞となる文部科学大臣賞(全国こけし祭り会長賞)を受賞しました。受賞作品は、鳴子小学校体育館に展示され、来場者は並べられた作品を見比べながら、展示を楽しんでいました。

3日の夜にはパレードが行われ、等身大の張りぼてこけしや鳴子踊り、万燈神輿が鳴子温泉街を練り歩き、大いに観客を沸かせていました。

▲競い合うように、目当ての工人の作品を買い求めていました

▲ひと筆ごとに、慎重に筆を進めていきます

松山発

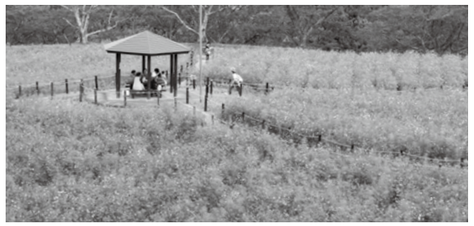
コスモスが秋の訪れを伝える

9月3日、松山御本丸公園にある松山コスモス園が開園し、早咲きのコスモスが訪れた人たちの目を楽しませていました。

9月11日には、コスモス祭りが開催され、市内各地域の伝統芸能が力強く披露されていました。

松山コスモス園は10月10日まで開園しています。10月2日にはステージショー、期間中の土・日曜日には「人車」の運行も企画されています。

人車の窓から見える景色を楽しみながら、のんびりとした乗車体験はいかがでしょうか。



▲松山コスモス園を彩るコスモスは、22種類約20万本が植えられています

古川発

9.11豪雨から1年 水害防止を考える

9月11日、古川地域の西荒井上集会所で、地域住民が主催した「豪雨被災防止を求めるシンポジウム」が開催され、約40人が参加しました。

宮城県北部土木事務所からは、被災河川復旧工事の進捗状況や、渋井川へのテレメーター(インターネット回線を通じて水位を随時観測できる装置)設置などの現在までの対応状況が説明され、国土交通省東北地方整備局から、完成後には洪水時に関係河川の水位を下げる効果があると考えられている、筒砂子ダム建設(鳴瀬川総合開発事業)の説明が行われました。参加した住民からは昨年の被災体験や被災河川工事に伴う要望などが出されました。

渋井川3カ所で護岸工事などを行う災害復旧工事は、全体で3割程度が完成していますが、地域の安全・安心のため、一日も早い完成が望まれています。